



鹿児島県青少年赤十字 賛助奉仕団会報

さくらじま

第14号

青少年赤十字賛助奉仕団信条

1. 青少年赤十字の充実発展に協力奉仕する。
2. 赤十字思想の普及啓発に努め、平和な社会の実現に寄与する。
3. 志を同じくする人々と手を取りあい、研鑽に努める。

発行者

鹿児島県青少年赤十字賛助奉仕団
発行
令和7年3月1日



賛助奉仕団結成六十年を迎えて

鹿児島県青少年赤十字賛助奉仕団

委員長 針原 正弘

全国の青少年赤十字賛助奉仕団の始まりは、奈良県の六名の退職者が集まって創られました。創立から六十年を経て、現在約三千五百名の会員数を要する団体となりました。

今年度七月の全国大会では六十年記念式典があり、その中で、全国の加盟校で歌われている「青少年赤十字の歌」「空は世界へ」の

二曲は、鹿児島県天保山中学校合唱隊が歌い録音されたものだということを、記念講演で聞きました。県内の生徒の歌声が、全国の加盟校で、現在も聴かれています。ことを誇らしく思うことでした。そして、鹿児島の青少年赤十字活動が、録音された五十年以上前から、熱心に取り組まれていたことを知ることができました。



「身近なところから広げる

青少年赤十字活動」

鹿児島県教育庁義務教育課企画調査係

指導主事 新名主 洋一

先日、ある学校で学級活動の公開授業が行なわれました。話合い活動が始まった途端、「私は○○だと思っただけだ。」「だよね。」「え、でもさ、○○じゃない?」「じゃあ、これでどう?」など、型にはまらない、まるで普段の友達同士の会話のようなやりとりで話合いが続きました。このような話合いは、通常の話合い活動でも見られる光景かもしれません。ただ、話合いが進むと一部の子供に発言

が偏り、他の子供は集中力が途切れてしまうことも多々あります。しかし、この学級のすごいところは、全員が最後まで話合い活動に参加しており、発言しない時にはしっかりと聴き、「うんうん。」「そうだよね。」と常に反応し続けているところでした。聴いてもらえるからこそ、自分の意見を安心して、積極的に述べることができるとい

う温かい関係性に満ちていました。青少年赤十字活動の態度目標は、「気づき」「考え」「実行する」です。学校で起きている問題や社会的に大きな課題に気づき、考え、実行することももちろん大切ですが、まずはその土台として、すぐ近くにいる仲間が何を考えているか「気づき、考え」るために、互いの意見を聴き合うことを「実行する」関係をつくるのが大切なのではないでしょうか。このような共感的な人間関係の育成、安全・安心な風土の醸成が、赤十字の基本原則である「人道」の実現につながるのではないかと思います。

今後、より身近なところからも青少年赤十字活動が広がることを期待したいと思います。

今年度は、台風襲来・コロナ禍から中止が続いていた夏季リーダーシップ・トレーニング・センターが開催され、児童生徒の成長を久しぶりに目の当たりにすることができました。

また、三年ぶりに加盟校訪問も実施でき、多くの学校で、管理職や担当の先生方と直接お話し、私たち賛助奉仕団の思いを伝える機会を得られたことはありがたいことでした。

今後も賛助奉仕団員の一人として、青少年赤十字の活動に積極的に関わり、子供たちの成長を見守っていきたくと考えています。

加盟校を訪問して

総務部長 大山 健治

青少年赤十字活動への理解と活性化を図るために、二年に一度加盟校の巡回訪問を行っています。本年度は十月二十九日より二週間で延べ十九名の団員により、始良・伊佐地区の小中高計二十四校と、四つの教育委員会を訪問しました。

今回の訪問では、活動が滞りがちになつている学校に対して、青少年赤十字の活動が学校教育の目標や児童・生徒の資質・能力の育成に向けた方向性が同じであることから、今後とも青少年赤十字活動への理解と継続を図つてほしいこと、児童・生徒たちがトレセン活動等に参加する機会を通して心身共に大きく成長していること、指導者や管理職向けに学びを深める研修会を実施していること等について紹介や啓発を行いました。

どの学校でも温かく受け入れていただき、話を興味深く、熱心に聞いてくださいました。そして児童・生徒のためになることがあれば少しでも取り入れていきたいという熱意が感じられました。そこで、我々団員もできる限りのことはさせていた、だきたいと応答したところでした。

今回の訪問を通して、学校の実情や管理職、担当者の悩みや思いを聞いたたり、また現在の青少年赤十字の活動を紹介したりして、情報を共有することの大切さを感じました。そして、我々団員のこうした地道な活動が、青少年赤十字活動への理解や活動の広がりにつながっていくことになるのではないかなという思いを新たにしたいところです。

令和6年度 青少年赤十字の加盟状況について

1 令和6年度 青少年赤十字加盟校

保育園 (26)	認定こども園 (16)	幼稚園 (11)	
小学校 (246)	中学校 (98)	義務教育学校 (7)	
高等学校 (20)	特別支援学校 (3)		合計427校

2 令和6年度 新規加盟校

小学校	8校	
[益山、花田、祁答院、西始良、大根占、安城、納官、島間]		
義務教育学校	1校	
[平島学園]		
		合計9校

【二〇〇文字作文 支部長賞】
みんなできれいに

鹿屋市立祓川小学校
二年 西別府 愛彩
きれいな通学路は、あるきやすい。夏休みに子ども会のみなどごみひろいをしたから、これから、ごみを見つけたら、すぐにひろいたい。みんなの通学路がピカピカになって、ルンルン気分で行けるとうれしい。

夏季トレセンに参加して

賛助奉仕団員 曾木 美知代

台風接近のため中止になったり、コロナ禍のため実施できなかったりした夏季トレセンを、ようやく実に六年ぶりに実施することができました。例年と違い、今回は、小中合同での開催でした。

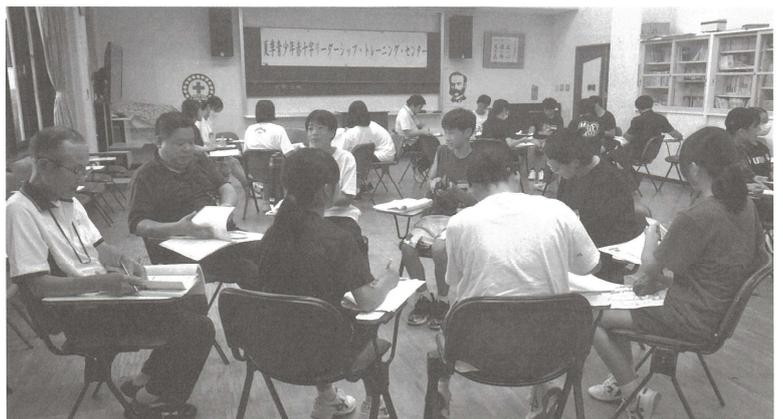
小学四年生から中学三年生まで発達段階の違う子どもたちでどうなるかと心配しましたが、中学生が小学生をリードし優しく接する場面が多く見られました。

例えば、記念写真では、小学四年生を中心に据えみんなの手を広げて取り囲むアイデアは一番小さい子を思いやる優しさを感じました。

みんなが目隠してチームで進むゲームでは、「みんな大丈夫。」と声を掛け合いながら進んでいました。素敵な中学生に拍手を送りたくなくなりました。

日高会長のアイデアで今回初めて取り組んだ防災ゲームは優れものであると思えました。ゲームを楽しみながら防災に必要なキーワードを覚えていくことができたからです。

積極的に話し合い活動に参加する子供たち、子供たちへの声かけが適切な先生方、支部の皆様方のサポート等、子供も大人も優秀でやる気にあふれ、素晴らしいと思う感動の三日間でした。



【二〇〇文字作文 支部長賞】
ぼくの使命

鹿屋市立寿北小学校
三年 小牟田 陸

給食時間の前後にたまに牛にゆうがこぼれている。ぼくは、つねに教室はきれいであってほしいと思つているから、見つけたら誰かがふむ前に必ずふくようになっている。これからもそうしようと思つている。

令和6年度 賛助奉仕団事業報告

Table with 4 columns: 月 (Month), 事業内容 (Activity Content), 開催日等 (Date/Time), 参加状況等 (Attendance Status). It lists various activities from April to December, including staff meetings, training sessions, and regional events.

※太字は、青少年赤十字賛助奉仕団の事業。

賛助奉仕団への思い

「わたしもあなたも、ボランティア...力を合わせて、ボランティア♪」私が小学生の頃、この音楽が校内放送で流れてくると、クラスの友人たちと歌いながら運動場のゴミ拾いをしていたことを覚えています。私の母校である鹿児島市立谷山小学校は、その当時から青少年赤十字加盟校でした。私の記憶では、高学年になると、丸い形をしたJRCバッジを一個ずつ貰えたと思います。小学生だった私は、JRCの意味を理解していませんでしたが、いつか胸ポケットのところに付けていました。

あれから五十年。退職後に、現職中にお世話になった元上司から賛助奉仕団への入団を勧められました。これまで県内の小学校を勤務したことはありましたが、賛助奉仕団のことはあまり知りませんでした。今回、賛助奉仕団の総会や研修会に参加させていただいて、青少年赤十字活動の目的や賛助奉仕団の取組、団員の役割などを少し理解することができました。

賛助奉仕団員 鬼塚 仁

「あれから五十年」

校長・教頭・指導主事等対象 青少年赤十字研修会に参加して

青少年赤十字の活動は秘めている

顧問 室屋 勝男

「教職員、担任の理解や研修を深めるためのベース作りを管理職として、どう工夫していくか。」「防災、防災教育で活用できることについて知りたい。」等、研修会に寄せられた課題です。

六月二十二日(土)に、小・中学校の管理職の先生、各教委指導主事の先生方十一名の参加をいただき、校長・教頭・指導主事等対象青少年赤十字研修会が開かれ、賛助奉仕団は、協力し、支援しました。

「赤十字のおこりと赤十字活動について」中野武伸課長、「青少年赤十字について」針原正弘委員長の講話から始まりました。事例発表は、中郡小学校日高京美

校長、黒神中学校野村浩二校長、加世田中学校永山大祐教頭の各先生方が、各テーマに添って発表されました。発表に対する質疑から、課題解決への期待感が高まって来たのではないかと考えました。更に校種別情報交換では、「青少年赤十字の活動を学校経営にどう生かしているか、どのように生かせばよいか。」の熱心な議論から、課題解決への道筋が見えて、研修の深まりが感じられました。現在、不登校児童・生徒の増加は、大きな問題となって来ています。青少年赤十字の活動は、自己肯定感、利他性、社会貢献意識等を向上させ、望ましい成長に多いなる可能性を秘めています。「賛助奉仕団の協力は、有難い。」は、日高京美校長先生(指導者協議会長)のことばです。



令和6年度 賛助奉仕団組織表

Table showing the organizational structure of the Red Cross Support Service Group for the fiscal year 2024. It lists various roles such as 顧問 (Advisor), 委員長 (Chairman), 副委員長 (Vice-Chairman), 総務部 (General Affairs), 行事支援部 (Event Support), 研修推進部 (Training Promotion), and 親善部 (Public Relations), along with the names of the individuals in each role.

加盟校への思い〜登録式に参加して〜

低年齢児向け登録式講話に挑戦

監事 森尾 恭光

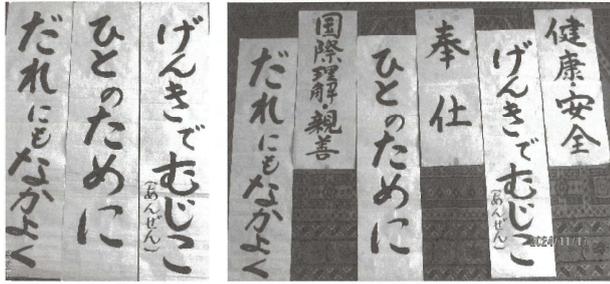
賛助奉仕団歴二十余年ながら幼稚園での登録式講話は未経験。そのため自発的に希望し、実践目標教示研鑽をしました。

幼稚園(桜ヶ丘幼稚園)における例で「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」をどう理解させればよいのだろうと考えました。

小学校低学年も同じことではないでしょうか。

意味が理解できないで、取組は不可能と考え、試行錯誤した表記を次の通りにして試みました。

団員のみなさん、いかがでしょうか？



小学校全校児童の掲示資料

幼・保・こども園の資料

初めての登録式

賛助奉仕団員 中村 浩一

賛助奉仕団として三年目、初めて登録式で話をするようになりました。

これまで勤務校の全校朝会で、態度目標の大切さ、特に「気づき」の大切さについて話したことはありましたが、正式な登録式での話は初めてのことでした。赤十字の誕生や基本原則、青少年赤十字の実践目標や態度目標などについて、繰り返し学んでいるであろう生徒たちの意欲を更に高めるには、自分自身がどのような実感をもって話しをすればよいかいろいろと考えました。

その自信のなさを補うために、校長先生の許可を得て、学校のホームページを見ながら青少年赤十字につながると思われる活動を確認し、その画像をプレゼンテーションに使わせていただきました。自分たちの日常の取組が「青少年赤十字活動につながるんだ」ということを生徒たちに感じてもらいたいという思いと、少しでも興味をもって話を聞いてもらえたらという理由からです。

青少年赤十字活動の中で一年の始まりである登録式は、学校にとっても子供たちにとっても重要な場になっています。その登録式での講話をどのように組み立てるのか、どこにポイントを置くのかなど、経験の浅い私でも登録式を依頼してくる学校の活動を後押しできるように、賛助奉仕団の活動を通して学んでいきたいと思えます。

【二〇〇文字作文支部長賞】

みんなで協力して 完成させた学級旗

鹿児島市立武岡小学校
六年 上久木田 陽愛

私たちのクラスには学級旗があり、そこには、「同心協力」という文字が入っています。最初は、四人という少ない人数で作っていました。手伝ってくれた友達も、一人二人と増えていきました。まさに同心協力です。

【二〇〇文字作文支部長賞】

優しい心でうまる 川上の畔町

いちき串木野市立市来中学校
二年 内田 あかり

私が住む川上地区では、毎年彼岸花を植える活動がある。その活動に参加すると雨の中でも一つずつ丁寧に植える地域の方々がいた。この全員で協力する活動のおかげで川上の畔町には今年も真っ赤な彼岸花が咲き誇った。

出発進行

鹿児島情報高等学校
三年 大西 智葉

朝の満員電車内で複雑に絡み合った路線図とにらめっこする一人の外国人。ガタンゴトンと走る音のみが響き渡る電車内で、誰もが彼のことを横目で気にした。次の駅で私は下車する。私は思い切って英語で話しかけた。

編集後記

今年度はコロナ感染症もある程度落ち着いてきたことから、青少年赤十字の活動も予定通り実施できました。賛助奉仕団もいろいろな活動にスタッフ補助として参加させていただきました。当たり前のことが当たり前にできる喜びを感じる事ができた一年でした。本県の賛助奉仕団員は五十四名になりました。体調の不安や仕事の関係で

活動に参加しなくてもできない歯がゆさを感じておられる方が多いかもしれません。「できる人ができる時に、できることを」をモットーにして参加してください。今回もお忙しい中に玉稿を寄せてくださった皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございます。

(研修推進部 福留)

